



## 第 376 号

令和3年11月4日発行

- 巻頭言
- 第63回北海道中学校長会  
研究大会宗谷・稚内大会
- 論文
- 文芸
- さりながら
- 前期情報・事務局日誌



「サンセット」 羽幌町立羽幌中学校 亀田 寛人



## 授業が変わり，学校が変わる

北海道中学校長会 副会長 盛 永 明 寿

3月までお世話になった前任校で「授業が変わり，生徒が変わり，学校が変わる」という貴重な体験をさせてもらった。今，学習指導要領が変わり，「授業」の在り方自体がクローズアップされている中で，何かの参考になればと思い，そのことを書かせていただくことにする。

前任校では5年間，校長として勤務させていただいた。その間に「北海道教育実践表彰」，そして「文部科学大臣優秀教職員組織表彰」を受賞させていただくこととなった。

ただ，赴任した当初は生徒指導上の問題が多発し，学力も低く，授業中も寝ている生徒が多数いるような学校であった。

「何とかしないと生徒に申し訳ない」。その必死な思いからたどり着いたのが，「授業を変える」ということだった。「学びの共同体」の考えに基づく「協同的な学び」を全ての授業に導入し，学校の存在意義と「学ぶ喜び」を全ての生徒に感じてもらいたいと考え，取組を始めた。もちろん先生方の授業観・指導観を根底から覆し，「授業を変える」などということは容易なことではない。ただ先生方は，私の「本気」の思いを感じ取ってくれ，手探りながら，真剣に授業を変えようと努力して

くれた。

わずか数か月で生徒の表情が変わり始めたのには，本当に驚かされた。中学生が身を乗り出して，本気で「聴き合い，学ぶ」姿が，どの授業でも見られるようになった。あたたかい雰囲気が生徒の間に満ちあふれ始めた。全ての生徒に，授業の中に「居場所」ができ，「学ぶ」価値のある授業へと変わっていったのである。情けない話であるが，「学ぶ」というのは本来こういうものなのかということ初めて体験させてもらったような気がした。そして，各種テストの点数も右肩上がりでも上がり始めた。「新型コロナ」がまん延する前年には，年間を通して全道各地から視察者が多数訪れるような学校となっていたのである。

校長の力がなくても，一人一人の教師の授業力・指導力が高くなくても，学校全体で取り組めば，こんなに「生徒が変わり，学校が変わる」ということを実感として感じさせてもらった5年間だった。一緒に頑張った仲間先生方には，是非この経験を道中のスローガンのごとく「新時代へ」つないでいてもらいたい。そして「令和の日本型学校教育」の構築につなげていてもらいたいと思っている。

# 北海道中学校長会研究大会 宗谷・稚内大会



## 第63回研究大会挨拶

宗谷・稚内大会実行委員長 佐藤佳弘



令和3年度第63回北海道中学校長会研究大会宗谷・稚内大会は、初となる「オンライン形式」での開催となります。本来ならば、天気の良い日には宗谷岬から遙かサハリンを望むことができる国境の街稚内市に全道各地からたくさんの校長先生方にお越しいただき、中学校教育が直面している課題の研究と実践交流を深めたいところですが、

新型コロナウイルス感染拡大への懸念と会同のリスクを考慮し北海道中学校長会と宗谷校長会で協議を重ねた結果、情報テクノロジーを駆使して、研究・交流の「実」をとる判断をさせていただきました。

今大会は、令和2年度函館大会（紙面開催）を初年度とする道中研究大会新基本主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」の2年次研究として位置付けており、さらには令和3年度が中学校での新学習指導要領全面実施年であることや「令和の日本型学校教育」の構築を目指す年であることを

踏まえ、「新学習指導要領全面实施、日本のてっぺん稚内から子どもに確かで豊かな資質・能力を育てる学校経営」を副主題として開催されるものです。

宗谷校長会では4月からの検討・協議期間を経て6月1日に正式に現地実行委員会を立ち上げ、現在、小学校長会の力もお借りしながら、オンライン開催の準備を進めているところです。当日の安定的なネット配信環境を保つため分科会参加総数150人と例年の半数に参加者を絞らせていただき、また半日のコンパクトな研究大会となっていますが、そのような制約の中であっても「校長の学び」が継続され、今大会の研究・交流内容が各地区へ実のあるものとなって環流されていくことを切に願うものです。

パソコンの画面越しではありますが、全道各地の多くの校長先生方の知見と実践を結集し、「最北端は最先端」を合い言葉に、新たな時代の学校経営研究にふさわしい大会となることを期待し御案内申し上げます。御挨拶といたします。

提言の概要

## 第1分科会

司会を終えて

「社会に開かれた教育課程」  
の実現

旭川市立広陵中学校 千葉雅樹

## 1 はじめに

旭川市中学校長会は、市内27中学校の校長で組織されている。「信頼される中学校教育の創造」の基本理念のもと、「知恵を結集し、さらに、前へ」を基本姿勢とし、校長としての資質向上を図る積極的な研修に努めている。



## 2 研究内容

柱1の「教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていく教育課程の編成・実施」については、各中学校区で、学校運営協議会を通して、小中9年間を見通した教育課程や教育活動に位置づけた地域と連携した活動が紹介された。

柱2の「教育課程の実施状況を評価し、その改善を図るための学校評価の開発」については、各中学校区で、学校運営協議会を通して、学校評価の充実を図るための方策が紹介された。

## 3 研究の成果と課題

- 教育活動の質の向上だけでなく、教職員の負担軽減など学校の課題解決に有効に機能した。
- 学校運営協議会を起点として、学校、家庭、地域が取組や課題を共有できた。
- 学校運営協議会の視点を取り入れた学校評価の実施により、各中学校区内における共通の課題や各学校の課題を共有できた。

## ＜研究の視点＞

「カリキュラム・マネジメント」の推進

- ①教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていく教育課程の編成・実施
- ②教育課程の実施状況を評価し、その改善を図るための学校評価の開発

旭川市立神楽中学校 江口貴彦  
旭川市立旭川中学校 濱中昌志

- それぞれの中学校区に応じた学校運営協議会の活用方法の一層の検討が必要。
- コミュニティ・スクールが有効に作用するためのコーディネーターとなる地域人材が地域から出てくるような組織づくりが必要。
- 今後、体制が整備されていく旭川市地域学校協働本部との連携が必要。

旭川市中学校長会の取組を基調提言として、旭川市教委のモデル事業等を中心に実践交流が行われ、それぞれの課題解決につながる取組などについて熱心な討議が行われた。

柱1については、少子高齢減少という地域課題と、コミュニケーション能力を身に付けさせたいという学校課題との共通性が、取組を加速した理由として挙げられた。

また、校長として地域に自ら足を運ぶとともに、先頭に立って校内調整を行うなど、学級活動の時間の活用、生徒会や学年協議会などを機能させる仕組みづくりとプロセスが、活動促進の鍵となることなども加えて確認された。

柱2については、「学校評価の開発」という視点からZoomならではの機能を活かし、リアクションボタンでコーディネーターの存在や、学校運営協議会が学校評価を行っている状況などを共有した。参加者からは、これまでの学校と地域の財産が活かされている様子や、まずは、行政が主体となり仕組みづくりを進めている状況などについて討議された。

結びには、学校を支援するという従来の考え方を革め、学校が、そして児童生徒が、地域創生の担い手として活躍することが重要であることを確認し、分科会を終了した。



提言の概要

## 第2分科会

司会を終えて

## 新たな時代に求められる資質・能力の育成と学習評価の充実

標茶町立虹別中学校 蠣崎浩一

### 1 はじめに

中学校において令和3年度より全面実施となった学習指導要領では、3つに整理された育成すべき資質・能力を身に付けるために「主体的・対話的で深い学び」の授業改善が求められた。本提言では、この「主体的・対話的で深い学び」の授業づくりに向けた校長のリーダーシップについて整理する。

### 2 研究内容



釧路校長会の実践では、校長が意図的に研修部との関わりをもって校内研修を行い、授業参観を通して授業改善の具体的な指導・助言に結びつける実践、校長が特に若手教員の育成を意図して授業者と事後研を行う実践や、校長自身が講師となって「勉強会」を開催する実践、義務教育学校化に向けた小中合同研修の中で、9年間を見通しながら授業づくりのポイントを校長が指導・助言する実践等が紹介された。また、学校経営方針の中に校内研修で目指す生徒像に関わる子供の具体的な姿を定義づけし、授業づくりの意識を高めさせる、道徳科の授業づくりを通して校長が指導・助言する実践なども紹介された。

### 3 研究の成果と課題

- 校長の関わりによって、「主体的・対話的で深い学び」の授業が、目指す生徒像の具現化に向かうことへの理解が深まった。
- 9年間を見通す中での指導・助言によって、小中の教員が目指す姿を共有できた。
- 研修内容に関わる指導・助言を行うことで、研修の焦点化が図られ、経営の充実につながった。

### ＜研究の視点＞

「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した学校経営の推進

- ①生きて働く「知識・技能」の習得と「見方・考え方」を深める教科指導の改善
- ②「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点による学習評価の開発

浜中町立霧多布中学校

佐藤岳彦

弟子屈町立川湯中学校

藤田崇充

- 「主体的・対話的で深い学び」の授業を学校全体で充実させる仕組みづくりのための指導・助言。
  - ICT活用を通して、個別最適化された学びや協働的な学びの充実が図られるための指導・助言。
  - 特に「主体的に学びに向かう姿」について、具体的な姿での評価を可能とする指導・助言
- 30人が参加した第2分科会では、釧路地区の提言をうけ、研究の視点①②を柱として各地区・各校の実態のもと、実践交流を中心に話し合いが行われた。学習指導要領が全面実施され、GIGAスクール元年ともいえる今年度、教師の資質・能力の向上に向けて有意義なものとなった。

#### 〈視点①について〉

授業参観や研究授業事後研において、意味のある助言をするために、校長としても「見方・考え方」のもち方が大切であることが指摘された。

#### 〈視点②について〉

新しく3観点で評価する元年となった今年度、先生方にまだまだ新しい観点での評価が浸透し切れていない実情があること、特にベテラン層にその傾向があるという課題が出された。また、今までのような授業では正しく評価はできないので、授業を変えていかなければならない為により強いリーダーシップを発揮して進めていかなければならないということが話題として挙げられた。

主体的に学習に取り組む態度については、自己調整力、粘り強さについて自己評価を使用して見取っていく必要があり、その為にはワークシートの振り返りをストックしていくことが重要であることが指摘された。また、個々に配備されたタブレットを活用し、ロイロ・ノートなどのアプリを使う実践などが紹介された。



提言の概要

## 第3分科会

司会を終えて

豊かな心と健やかな  
体を育む教育の充実

鹿部町立鹿部中学校 後藤正弘

## 1 はじめに

渡島小中学校長会では、豊かな心と健やかな身体を育む教育の充実に向けて、各校の実践事例に基づいたレポートを持ち寄り、今日の教育課題等を解決するための方策及び校長としての役割と関与について、組織的に協議・研究を積み上げてきた。

## 2 研究内容

柱①の「スポーツとの多様な関わり方を選択、実践できる力の育成と体力の向上」に関しては、3校の実践事例から、体力向上プランの作成と検証、全員で取り組める体力向上策の実施と継続、運動とゲーム性の多角的なアプローチの大切さが、実感できた。そして、運動を続けられる原動力が、「面白味」や「楽しみ」へと変換させられる個人やチームでの「情意面」の向上であることが確認できたと思う。

柱②の「食育の推進と心身の健康の保持増進に関する指導の充実」に関しては、栄養教諭の配置環境や活用の仕方が、大きなポイントとして存在していることが、改めて確認できた。また、義務教育9年間で育むべき「食育のプラン」が市や町で確立されていると、揺らぐことのない取組が可能になるのではないかとこの提案がなされた。



## 3 研究の成果と課題

- 校長の強いリーダーシップが、健康リテラシー育成の観点からのより良い取組へとつながっている。
- 運動習慣や食習慣の格差を埋める取組が必要であり、人材や公的ストックの不足が課題である。

## ＜研究の視点＞

健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを実現するための教育の充実

- ①スポーツとの多様な関わり方を選択、実践できる力の育成と体力の向上
- ②食育の推進と心身の健康の保持増進に関する指導の充実

松前町立松前中学校 蛭子友正  
八雲町立落部中学校 古館勉

第3分科会では、渡島校長会中学校部会の取組について提言し、協議の柱①及び②を中心に据えて Zoom による討議を行った。

柱①に対しては、「スポーツとの多様な関わり方」及び「体力向上策」という観点で4人の参加者から自校の取組について紹介していただき、感想・意見をいただいた。今後の取組においては、体育授業の改善・充実を図り、子供たちに運動の楽しさを実感させ、自発的に「やる気」をもって取り組むことが重要であることを確認することができ、協議を深めることができた。

柱②に対しては、「食育の推進」及び「心身の健康の保持増進」という観点で4人の参加者から感想や意見をいただいた。食育の充実を図るための市町や学校に配置されている栄養教諭との連携の大切さについて協議が深められた。栄養教諭と連携した「郷土料理の調理体験」などは、郷土を知り、郷土愛を育む学習としても重要であり、今後ますます地域や保護者との連携が重要となることが確認された。

今回は初めての Zoom 開催となり、大きなトラブルもなく進められ、鹿部中学校の後藤校長先生の御提言も素晴らしい内容だったが、分科会協議の時間が20分間しかなく、十分に協議を深められず、残念、且つもったいないと感じた。活発な討議となり、学校と家庭・地域が一体となった教育活動の充実に向けた学校経営への意識が高められる分科会となった。



## 提言の概要

## 第4分科会

## 司会を終えて

## 多様化した学校教育課題に対応できる教員の育成と働き方改革の推進

札幌市立北野台中学校 安田仁昭

### ＜研究の視点＞

教職員としての豊かな人間性や指導力の向上

- ①生徒や保護者，地域の信頼に応えられる教員の育成と研修の在り方
- ②教科・領域の専門性と指導力を高められる人材育成と研修の在り方

札幌市立幌東中学校

荒島 晋

札幌市立星置中学校

藤本 尚人

### 1 はじめに

札幌市中学校長会では，令和元年から3か年，「新たな未来を紡ぎ，よりよい社会を創る力を育む札幌市中学校教育」を研究基本主題として継続研究に取り組んできた。その下で，管理部では「新たな未来を紡ぎ，よりよい社会を創る力を育む学校経営」を研究課題として研究を進めてきた。



### 2 研究の概要

#### (1)研究の視点

「学校力」を高めるため，管理職の経営力，教師の指導力，教育資源の活用力の視点から捉える。

#### (2)研究の手だて

三つの視点に沿った三つの手だてから探る。

#### (3)研究計画

「在り方」，「充実」，「深化」と進める。

### 3 研究内容

(1)「課題探究的な学習」を取り入れた授業の充実  
多くの教員が「課題探究的な学習」の必要性を認識。しかし，実践できていない教員も多い。

(2)スキルアップを図る校内研修の在り方

扱いたいテーマと取り入れたい手だての顕在化。

(3)小中連携・接続の取組について

学びの連続性への意識の高揚や系統的な指導への理解の深化が課題。

### 4 まとめと展望

「学校力」を高めるには，組織的・機動的な学校運営体制の構築が必要。

個々の教職員が向上心を抱き，参画意識をもち，多様化する教育環境に柔軟且つ積極的に関わる必要がある。

今後も，教職員の人材育成と研修の在り方について研究を深め，校長として効果的な手だてを講じていく。

第4分科会では，札幌市中学校長会での3か年の取組の中から研究主題及び研究の視点に即した内容を取り上げ，その成果と課題をもとにした提言発表があった。その後，二つの討議の柱に分けて，質疑応答と自由討議を行った。限られた討議の時間，初めてのWeb会議システムを使った分科会という参会者にとって慣れない環境ではあったが，貴重な情報交換の場となった。

#### 【討議の柱1について】

提言発表の，研究の内容(2)と(3)を中心に自由討議を行った。札幌市立簾舞中より，小中連携の取組の話題提供があった。簾舞中では，以前より校区内小学校との交流・連携に取り組んでいる。具体的には小中相互の授業参観とその後の話し合い，校内研修会の交流，生徒指導の情報共有などに取り組んできた。小規模校であることを生かし充実した取組となるよう心掛けている。今後はGIGAスクール構想の活用なども交流していきたい。

#### 【討議の柱2について】

提言発表の，研究の内容(1)と(2)を中心に幅広く質疑応答・自由討議を行った。枝幸町立枝幸南中より，札幌での1人1台端末の活用状況の質問があった。多くの学校・教科で使われ始めているが，差がある。10月中に全生徒が家庭に持ち帰り，接続テストを行う。使用が進むと，機器の扱いや充電器など用意など新たな課題が見えてくる。

#### 【全体を通して】

新学習指導要領，学習評価，働き方改革など，校長のリーダーシップが問われている。教職員との対話を大切にし，一人一人の指導力を向上させていきたい。

働き方改革で生まれた時間を，生徒とともに教職員も人間性，感性を広げていきたい。



提言の概要

## 第5分科会

司会を終えて

家庭・地域や校種間における  
連携・協働の推進

滝川市立明苑中学校 鎌田俊博

## 1 はじめに

滝川市校長会は、今年度の空知の研究主題である「新たな時代を牽引し、持続可能な社会を形成していく、空知を愛する子どもを育てる学校経営」に基づき、「ふるさと空知」から世界を見つめ、新しい社会の形成者として挑む子供たちを育成するため、家庭、地域・関係機関との連携を一層図りつつ、新たな知を拓き、人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す学校教育の在り方などについて、課題解明に努めてきた。



## 2 研究内容

滝川市は、令和元年度から四つの中学校区ごとに学校運営協議会が設置され、コミュニティ・スクール制度が始まり、「地域とともにある学校づくり」に向けた取組が進められている。

制度のスタートに当たっては、既存の仕組みである学校関係者評価委員制度や学校支援地域本部事業を活用し、滝川市教委の地域コーディネーターが間に合って各中学校区で構成された。

各校区で、小中共通の家庭学習週間の設定、中学生の小学校への学習支援、交通安全指導、置き勉プロジェクトの取組、合同クリーン作戦など、それぞれの特徴的な取組が効果的に進められている。

## 3 研究の成果と課題

小中での学習強調週間は全ての校区で実現されたほか、それぞれの校区ごとの主体的な活動を無理なく地域連携として進めることができたことが成果としてあげられる。

課題としては、今後一層小中学校と地域が密接に関わるようにしていく必要があること、人材バンクの活用を進めること、来年度学校統合があるので学校運営協議会と地域との合意形成を図る必要があることである。

## &lt;研究の視点&gt;

学校の教育活動への参画を促す学校経営

- ①家庭や地域との連携，コミュニティ・スクール等を活用した教育の充実
- ②家庭の教育力を高め生活習慣や学習習慣を確立する取組の充実

浦臼町立浦臼中学校 小熊孝一  
滝川市立開西中学校 廣瀬一仁

第5分科会では、運営・司会・提言含めて26人の校長がオンラインで協議に参加した。

明苑中学校 鎌田校長による滝川市校長会のコミュニティ・スクールを核とした学校と家庭地域との連携による学校経営の充実に関する提言の発表があり、研究の視点①と②を討議の柱として協議が行われた。

参加者からは、まず提言の内容に関わり、明苑中学校の特徴的な取組である自ら考え行動する生徒を育む「置き勉プロジェクト」に関して学力との関係や継続的な生徒への指導について、滝川市で位置づけられているコーディネーターの立場と役割について大きな関心が寄せられていた。

討議の柱①「家庭や地域との連携，コミュニティ・スクール等を活用した教育の充実」に関わっては、町内の小学校2校と中学校1校、道立高等学校1校で、既存の組織を活用しながら一町一組織で充実した取組を推進している例が報告された。

それぞれの地域によって学校単位、中学校区単位、市町村単位での学校運営協議会組織が機能し、特色ある活動を展開している様子が見えがえるものであった。

討議の柱②「家庭の教育力を高め生活習慣や学習習慣を確立する取組の充実」に関わっては、家庭学習週間の取組に関する導入の経緯と成果等について話題となった。特に、多くの地域と同様に家庭でのメディアに触れる時間の改善に苦慮しているとの例が報告された。また、義務教育学校の取組としてメディアコントロールに特化した形で推進し家庭学習の充実を図ろうとしているとの報告があった。

短い時間ではあったが、活発な討議となり、学校と家庭・地域が一体となった教育活動の充実に向けた学校経営への意識が高められる分科会となった。



## 論文

# 「地域とともに…」小中一貫教育の構築に向けて ～利尻富士町鬼脇地区のこれから～

利尻富士町立利尻小学校・鬼脇中学校 大場久稔

## 1 はじめに

本校は、宗谷管内の中でも早くから漁業を中心として栄えてきた利尻島南東部鬼脇地区にある。明治19年1月、利尻小学校は開設され、以来135年の歴史を誇る。そして鬼脇中学校は昭和22年開校し、2校は同地区の中で共に義務教育を担ってきた。現在に至るまで、児童生徒数の減少によりいくつかの学校の統廃合を経て、平成29年1月に両方の学校名を併記して校舎を新築し、小・中併置校として新しく生まれ変わった。これは単なる新設校ができたことにとどまらず、新たな局面＝小中一貫校への序章だった。

## 2 校舎シェアから交流・連携へ

本校が併置校になるという計画については、10年以上前から話題には上がっていたようだ。利尻富士町は長期的な展望と生涯学習推進計画を基に地域・保護者との長い年月をかけて協議を重ねて併置校化を進めていったのである。そして、校舎一体型でどのような教育連携をしていくか、地域・保護者の理解の下、両校の教職員プロジェクトチームで正にソフトランディングで共にできる教育活動を少しずつ増やしていった。初めの1年は、全校朝会、運動会、文化祭が一緒に行った程度から始まった。本格的な中学校からの授業の乗り入れもなく、校舎は共有するが教育活動は小中別に行われることが大半であった。その後、連携の重要性を踏まえて、小・中縦割り活動が清掃活動、運動会の取組に活かされ、連続性のあるリーダーづくりの基盤を整えてきた。中学校からの授業の乗り入れは、小6理科・外国語を手始めに実行していった。

## 3 連携から一貫教育に向かって

令和3年度に入り、利尻富士町は数年後に本校を小中一貫教育校にする方針を打ち出した。それは、併置校である本校の特徴を最大限に生かす施策である。

### (1) 小中一貫教育の目標設定

小中一貫教育で目指す「15歳の姿」を、「郷土愛を育み創造性を発揮させながら、自ら切り拓く子供の育成」の下、目指す児童生徒像として「<知>確かな学力を身につけ、自ら解決できる子<徳>心豊か、思いやりの心で互いに認め合う子<体>心身を鍛え、困難に打ち克つ粘り強い子」、この3つの柱を定め、最終的に「他者とのかかわりの中で、自己を見つめ、新たな課題をもち、よりよい自分づくり

をめざす子供」となって新たなステップを踏み出す15歳の姿とした。

### (2) 小学校複式学級の単式授業の推進

今年度から定数内で教科担任を配置して、高学年と中学年では算数科と理科で単式授業を行っている。これにより担任はいずれかの学年で授業を行うことによって、複式に比べて効率よく指導することができている。また、教科担任からの客観的な視点で児童を捉えられることにより、マルチな視点でチームとして指導工夫に活かされている。

### (3) 利尻高校との連携（中高連携）

利尻島には本町のほか利尻町があり、両町で3つの中学校と利尻高校がある。島内の高校進学を受け皿として利尻高校の存在は大きい。そのため生徒の実態を共有する中高連携教育研究として、毎年もち回りで公開授業を行っている。また、利尻高校のキャリア教育の一翼を担う「学問研究ガイダンス」を通して、大学や専門学校の教育内容を知る講座に参加をしたり、大学教授による講演に参加したりするなど、将来の自己実現に向けて貴重な学びの機会を与えられている。

### (4) 地域起こしグループ『鬼プロ』とのコラボを探る

『鬼プロ』は鬼脇地区に住む商店主、保護者、教職員などが任意で構成する町起こしのグループである。これまで老人保健施設の一角を借りて農園活動を行い、施設利用者のために収穫祭を開いたり、夏の「島祭り」や冬の「雪ん子広場」等で余興や縁日を開いたりして地域住民を楽しませている。これらの『鬼プロ』活動と児童・生徒会のボランティア活動（クリーンアップ作戦、文化祭の「縁日」の取組、独居老人宅の除雪お助け隊活動）を、より地域プロジェクトとして連携させて、地域の活性化のためにどのような取組をしていくか、人材資源活用の可能性が広がっている。

## 4 地域の活性化の担い手として

鬼脇地区の本格的な小中一貫教育はこれからだが、町が「地域の宝」として子供たちを大切に育てていただいているからこそ、この町・地域をよりよいものとしていく人材を育てたい。そしてその思いは、「社会に開かれた教育課程」で示されている「豊かな人生を切り拓いていくために求められる資質・能力」に寄与していくに違いない。この鬼脇地区小中一貫教育は、将来のよりよいまちづくりを担う人材育成の取組でもある。

## 文芸

## 「奥行き」のあることば

釧路市立春採中学校 幸村 仁

ここ数年、私のお気に入り番組の一つにTBS系「ブレバト!」がある。中でも俳句コーナーの夏井いつき先生の芸能人の凡作を名作に変身させる劇的添削が話題で、今や2ヶタ視聴率を外さない人気コンテンツになっている。私は完全体育会系で、これまで文学・歴史とは程遠く、俳句などには全く興味関心のない生活を送ってきた。

しかしこのコーナーに出会ってからは、短い言葉の中に人の思いや感情、情景までもが映像化されることを実感させられている。また夏井先生の歯に衣着せぬ評価は、一見厳しいようにも捉えられるが、非常に明確で、説得力のある言葉が返ってくる。そのとき必ずモヤモヤとした気持ちになる。それは、教員生活30数年、教師としての自分の言葉にどれだけの説得力があったのか、ということだ。それを問われているように思う。17音に凝縮し、しかも季語という時候も添えながら思いを伝える単純明快でありながら奥深いツールと夏井先生の話術は、自分に何かを「見つめ直せ」と言われているようにも思う。

改めて「俳句」をウィキペディアで調べてみた。その特徴として、五・七・五の「韻律」で詠まれ「季語」「切れ」を入れるとあり、「余韻」を残すともある。

「季語」については、俳人の松田ひろむは「季語は象徴となるイメージを与えてくれるのです。これを連想力といってもいいでしょう。また時間と空間を大きく広げる役割があるのです」と言う。また、「切れ」については、芭蕉の「古池や蛙飛びこむ水の音」を例に、「『古池や』の後で一呼吸、句の流れが切れている。これは、切れ字の『や』による効果である。読者はその一瞬の休符の合間に、作者を取り巻く環境や作者の思想・感情・情念・背景などを勝手に想像してしまう仕掛けになっている。このテクニックが『切れ』と呼ばれ、十七文字という限定された語数で、言葉に形と質感を与える効果をもつ。さらに、季語とあいまって句に余韻をかもしだす」と。

まだまだ学びは多い…。

## 文芸

## 私が先生になったとき

網走市立第四中学校 高橋 龍彦

「30秒理論」を御存じだろうか。映画を見るときに最初の30秒を観て、(面白くないな)と感じた映画は、最後まで観ても、やはり興味はもてないというものだ。確か小説家の開高健さんが、何かのエッセーで披露していたものを学生のときに読み、実践を繰り返してきたのだが、かなりの高確率で当たっているのだ、今も自分の中の知恵として残っている。

さて、持ち時間30秒で不特定多数の人を惹きつける…。なかなかの難問ではないだろうか。もちろん最初だけで終わりではなく、そこから始まる2時間程度の時間の大事な幕開けだ。観ている人の気持ちをぐわっと驚掴みにして、注目させたい。この理論を知ってから、講演会や講習会、出かける場所ごとで最初の「30秒」が気になってしょうがない。優れた講演者は、最初の言葉から聴衆の心を掴み、ぐいぐいと本題へと迫っていく。もちろん自分も立場上、人前で話すことが多くある。「30秒」が勝負と思うと迂闊な話ができない。(今日は、生徒の安全安心についての話だから、映画館ではないのだから)と自分に言い聞かせても満足できない。どうかして、関心をもってもらいたいのだ。常に新しい切り口を考え、手を変え品を変えと言っても、話す内容は、限られている。心の中では(マンネリだなあ)と思いながらも話す機会はや

ってくる。それでいいだろうか。

中学校は今年度から新学習指導要領の本格的実施の記念すべき年である。教室に授業を覗きに行くと、本校教職員は、毎日、授業に取り組み教育活動に励んでいる。宮沢賢治の作と言われている『私が先生になったとき』という詩に、

「私が先生になったとき

自分がたたかいの外にいて、

子どもたちに勇気を出せといえるのか」

という一節がある。そのとおりである。教職員が授業で生徒の意欲を引き出す努力を続けているのであれば、自分も負けてはいられない。話のネタを常に仕入れておきたい。幸い(?)コロナ対策のために、どこへも行かずに家と学校を往復していたので、読書の時間はたっぷりあり、話のネタには困らないだけの仕込みができた。特に、某ファミリーレストランの草分け的な〇〇〇らーくの創業者が、76歳で新しいタイプの店舗を立ち上げ、83歳になった今でも、意欲的に活躍する話にはとても心を動かされた。早くこの話を生徒たちにしたい。



かの有名なウォルト・ディズニーの「現状維持では後退するばかりである。」という名言は、多くの皆様が御存じのとおり。日本人では、パナソニックの創設者である松下幸之助氏が「現状維持は後退の始まり」と説き、自分自身を戒めている。

学校現場は前例踏襲が多く、なかなか新たな取組が浸透しにくいと言われる。職員会議などで係や担当者の発言を聴いていると、「〇〇は昨年度と同様です。」というのがかなり多い。

不易と流行、伝統文化の継承などを鑑みると、何でもかんでも変えることが良いとは思わないが、黒板とチョークのみの授業スタイルを始め、学校内には至る所に改善・改革のメスを入れる必要性のあるものが多い。

昨今、働き方改革推進の流れから業務改善の必要性が叫ばれ、学校によっては運動会・体育祭の半日開催（コロナ禍以前から）、家庭訪問の中止、所見のない通知表の発行など、工夫した取組が実践されていると聞く。前向きで、大変素晴らしい取組だと思う。と同時に、職員の意識を変え新たな取組に挑戦するには、様々な苦勞があったことと推察する。

## 現状維持は後退

豊頃町立豊頃中学校 吾妻昌三

本校でも、組織の改編や業務改善、行事の精選や内容の見直しなどいくつも提案してはいるが、長年続いてきた古い慣習にしがみつくと職員の意識を変え改善を進めていくことは、なかなか難しい。

数ヶ月前、修学旅行の反省を職員会議で取り上げたとき、こんな話をして職員にびっくりされた。「毎年毎年、3年生の授業時数確保に苦勞するなら、2年生の修学旅行を検討してはどうか。」

修学旅行の実施学年については各市町村に規定があり最終学年としているところが多いが、全国には2年生で実施しているところも数多く存在する。インフルエンザによる学級閉鎖を想定し、余剰時数を確保するのが常となっているが、現在はさらにコロナ禍である。3年生が10日間も2週間も学級閉鎖になれば、特別な措置を講じなければならない。

これには多くの職員から「なるほど」という声が聞かれたが、「検討してみよう」とはならなかった。

余談だが、文化審議会国語課題小委員会の昨年の中間報告案にあった、横書き文書の読点を「、」から「、」にという話はどうなったのか。本校では今年度から「、」に統一している。



いまだ出口の見えない新型コロナウイルスへの対応に奔走しながらも、学びを止めずに日本中の学校が知恵を出して学校教育を前へ進めている。

現在、学校は世の中の大きな価値観の変化とともに、担うべき役割を熟考し、未来を切り拓く子供たちの育成に向けた、大きな教育改革の中にある。

学習指導要領の改訂にみる「教育の系統化」「ゆとりと充実」や「新しい学力観」「生きる力」等のキーワードは、その時代背景とともに、世の中のニーズや価値観を示したものでもある。今回示された「社会に開かれた教育課程」もそのように考えると、子供たちの学校での学びを「家庭とつなげ」、「地域とつなげて」、育成すべき資質・能力を育てていくことが求められているのである。

小中一貫教育の推進やGIGAスクール構想、学習スタイルの変化やCSの推進、様々な教育施策の源流は、情報を身にまとう新時代に対応できる子供たちを育てることはもとより、各学校を中心としたコミュニティの活性化の必要性としてつながっているように思う。まさに社会教育と学校教育の協働であり、いわゆるスクール・コミュニティが、今後教育の諸課題を

## 地域に開かれた教育課程

帯広市立大空中学校 村松正仁

解決に導く姿となるのではないだろうか。

そのような中で、学校が目指すべきは、各自自治体が進める教育施策を教育課程と連動させ、学習効果を最大限に発揮できる学校づくりなのだろう。

言うまでもなく、教育課程を編成する主体は、学校である。校長のマネジメント力が問われる意味がそこにあることを肝に銘じて取り組んでいかなければならない。

本校は、来年4月に、児童・生徒約500人の施設一体型の義務教育学校として開校予定である。学校運営協議会も設置され、地域の期待は想像以上に大きい。社会に開かれた教育課程を実現し、教育改革をチャンスとして捉え、現在開校準備を進めている。

新校舎には、「地域交流スペース」といった地域開放の空間があり、学校と地域の熟議を通してその利活用を決める画期的な空間である。

地域とともに歩む学校の姿を実現するために、自身の経験を生かし、既成概念にとらわれず、多くの声を聞きながら共に歩み、共に創る気持ちをもって教育活動を進めていかなければならないと思う。

# 前期情報

## 〇道教委との情報交換会及び各課懇談会

道教委との情報交換会（今年度より文教施策懇談会が情報交換会に名称変更された）及び各課懇談会は、道小、道中、道教委から69人が出席し、7月26日、オンラインにより開催された。

前半の情報交換会では、「GIGAスクール構想における1人1台端末の活用について」をテーマに協議を進めた。後半の各課懇談会は3つの分科会に分かれ、道小・道中・道教委から提言と追加質問をし、それぞれに道教委の担当課から回答を頂きながら、意見を交流し懇談を深めた。なお、詳細については後日、「道小情報・道中だより号外」で報告する。各教育局に対する要望活動の際に資料として活用していただきたい。

## 〇地区別教育経営研究会

今年度は7月31日の宗谷地区を皮切りに、11月18日の札幌市地区（中）まで各地区で順次開催される予定であった。しかし、緊急事態宣言が発出されるなどにより、やむなくオンラインや書面による開催となった地区が多かった。ただし、オンライン開催した地区においても、地区の教育課題の交流、講話や講演、グループ協議

## 北海道中学校長会 事務局長 越田 公美

を取り入れた研修をするなど、充実した教育経営研究会となっている。

## 〇第63回北海道中学校長会研究大会宗谷・稚内大会

9月24日、北海道中学校長会研究大会宗谷・稚内大会が、全道より150人の会員が参加してオンラインにより開催された。

大会は、研究主題「新たな時代を切り拓き、よりよい社会を創り出していく日本人を育てる中学校教育」に基づき、「新学習指導要領全面实施、日本のおっぺん稚内から子どもに確かで豊かな資質・能力を育てる学校経営」を大会スローガンに充実した研究大会となった。宮澤一則全日中会長による情勢報告、全日中提案概要説明の後、5つの分科会に分かれ、熱心な研究協議が行われた。

例年実施している小グループでの協議は実施しなかったが、充実した分科会であった。校長の今後の学校経営に大きく資するものとなり、次回大会への道筋をつける大きな成果を得た大会となった。これまで約2年間、コロナ禍にも関わらず、宗谷校長会佐藤佳弘実行委員長を中心に、誠心誠意準備をしてくださったことに心から感謝申し上げたい。

# 道中事務局日誌

2021. 6. 5～9. 30

月	日	曜	業務内容	時刻	場所	月	日	曜	業務内容	時刻	場所
6	5	土	北海道学校保健会第1回理事会(木村)(書面開催)		中央中学校	8	5	木	第12回公立高等学校入学者選抜改善の検討に係る懇談会(越田, 笹川)	10:00	道庁別館
	8	火	北海道公立学校教職員互助会 令和3年度第1回理事会Web(三浦利)	10:30	千歳中学校	20	金	釧路・釧路市地区・地区別教育経営研究会Web(三浦利, 坂本)	13:00	千歳中学校, 妹背牛中学校	
			全国高校総体実行委員会Web(三浦利)	14:00	千歳中学校	23	月	函館・渡島地区・地区別教育経営研究会・書面(越田, 小森)		東月寒中学校, 西部中学校	
	9	水	全日中第1回Web副会長会(越田)	10:00	東月寒中学校	24	火	第6回小中合同研修会Web(五役)	9:00	各学校	
	12	土	日本教育会北海道支部総会・研修会Web(三浦利, 越田, 笹川, 野崎, 木村, 藤田, 橋山, 盛永, 水野)	9:30	各学校				全日中札幌大会運営委員会(三浦英)	10:00	東白石中
			北海道PTA連合会総会(三浦利)(書面開催)		千歳中学校	25	水	根室地区・地区別教育経営研究会Web(越田, 加藤)	13:15	事務所, 花川北中学校	
			北海道教育の日総会(笹川)(書面開催)		北栄中学校			第72回全国学校給食協議会大会 第3回実行委員会(三浦利)Web	15:00	千歳中学校	
	17	木	令和4年度全国中学校体育大会北海道・東北ブロック大会第1回北海道実行委員会Web(三浦利)	14:00	千歳中学校	26	木	全日中研静岡大会対策本部会議Web(三浦利)	15:00	千歳中学校	
	19	土	日本教育会本部理事会・総会(三浦利)(書面開催)		千歳中学校	27	金	第5回事務局研修会Web(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	10:30	各学校	
	22	火	臨時5役研修会Web(三浦利, 越田, 笹川, 野崎, 村上, 専任職員)	10:00	各学校, 事務所			全日中研・道教委挨拶(三浦利, 越田)	13:45	道庁別館	
	24	木	北海道公立学校教職員互助会第2回理事会Web(野崎)	13:30	緑陽中学校			部活動・クラブ活動・少年団活動等感染症対策連携会議Web(吉本)	10:00	稲穂中学校	
	30	水	第72回全国学校給食協議会大会第2回 実行委員会(三浦利)(書面)		千歳中学校			上川地区・地区別教育経営研究会・書面(小森)	15:00	西部中学校	
7	1	木	第4回事務局研修会Web(五役, 筆頭副会長, 幹事, 専任職員)	10:30	各学校, 事務所	30	月	根室地区・地区別教育経営研究会Web(野崎, 山田)	9:30	苫小牧市教育・福祉センター	
			北海道学校保健会第2回理事会(木村)(書面開催)		中央中学校	31	火	第1回北海道教員育成協議会Web(野崎)	13:30	緑陽中学校	
	7	水	第1回地域部活動推進協議会Web(三浦利)	10:00	千歳中学校	9	2	木	令和3年度がん教育総合支援事業第1回連絡協議会Web(立花)	15:00	伊達中学校
			令和3年度小中学校免許状併有のための認定講習検討会議Web(野崎)	13:30	緑陽中学校	6	月	臨時5役研修会Web(五役, 専任職員)	14:00	各学校, 事務所	
	9	金	全日中臨時常任理事会・研修会Web(三浦利)	13:00	千歳中学校	10	金	第8回北海道教育推進会議Web(三浦利)	15:00	千歳中学校	
	13	火	令和3年度中学校技術・家庭科免許取得のための認定講習検討会議Web(吉本)	13:30	稲穂中学校	13	月	全日中第2回Web副会長会(三浦利)	10:00	千歳中学校	
	15	木	道中研合同説明会Web(三浦利, 越田, 笹川, 野崎, 小澤, 三浦英, 吉本, 田丸 実行委員会, 提言, 司会, 運営)	15:00	各学校			全日中札幌大会打合せ(越田)	14:30	袖中学校	
	16	金	第5回小中合同研修会Web(五役)	11:00	各学校	14	火	宗谷・稚内大会接続1ハールWeb(五役, 副会長, 地区理事, 幹事 実行委員会, 専任職員)	13:00	各学校, 稚内市「風へる」事務所	
			令和3年度小中合同事務局研修会Web(五役, 幹事, 専任職員)	13:30	各学校, 事務所	15	水	北海道産業教育審議会学校視察(笹川)	10:00	岩見沢農業高等学校	
			令和3年度道小・道中合同学習会Web(五役, 幹事, 専任職員)	14:30	各学校, 事務所			部活動・クラブ活動・少年団活動等感染症対策連携会議Web(三浦利)	11:00	千歳中学校	
	26	月	令和3年度道教委との文教施策懇談会Web(五役, 副会長, 地区理事, 幹事)	14:00	各学校, 事務所			北海道学校保健会第3回理事会・書面(木村)		中央中学校	
			令和3年度道教委との各課懇談会Web(五役, 副会長, 地区理事, 幹事)	15:30	各学校, 事務所	16	木	第2回全日中研北海道(札幌)大会実行委員会Web(五役, 副会長, 研修部, 専任職員)	13:00	各学校, 事務所	
	28	水	宗谷地区・地区別教育経営研究会・書面(島山)		江別第三中学校			第3回副会長研修会Web(五役, 副会長, 専任職員)	13:30	各学校, 事務所	
	29	木	特別支援学級の適切な役割分担に係る在り方検討会議Web(越田)	15:30	東月寒中学校			第3回理事研修会Web(五役, 副会長, 地区理事, 専任職員)	15:00	各学校, 事務所	
8	3	火	日高地区・地区別教育経営研究会・書面(立花)		伊達中学校	17	金	全日中研北海道(札幌)大会運営委員会(越田, 笹川)	14:00	中の島中学校	
			旭川市中学校・地区別教育経営研究会(三浦利, 森田)	10:00	旭川市神楽公民館	22	水	北海道教育の日第2回幹事会・書面(笹川)		北栄中学校	
			上川地区・地区別教育経営研究会・書面(小森)		西部中学校	24	金	第63回道中研宗谷・稚内大会Web(五役, 副会長, 地区理事, 実行委員会, 専任職員)	13:00	各学校, 稚内市「風へる」事務所	
			小樽市・地区別教育経営研究会一部Web(村上, 田丸)	13:00	小樽市ジブラルタ生命ビル 手稲中学校	27	月	留萌地区・地区別教育経営研究会Web(笹川, 坂本)	10:00	北栄中学校, 妹背牛中学校	
	4	水	後志地区・地区別教育経営研究会Web(三浦英)	10:50	東白石中学校	30	木	第1回北海道犯罪のない安全で安心な地域づくり推進会議幹事会・書面(森田)		北星中学校	